

カミングアウトから自己表現へ  
真の社会参加創造事業 プロジェクト報告

# 「支援」から「共創」へ。 見えない当たり前を 問い直す活動の軌跡

NPO法人 地域生活支援ネットワークサロン



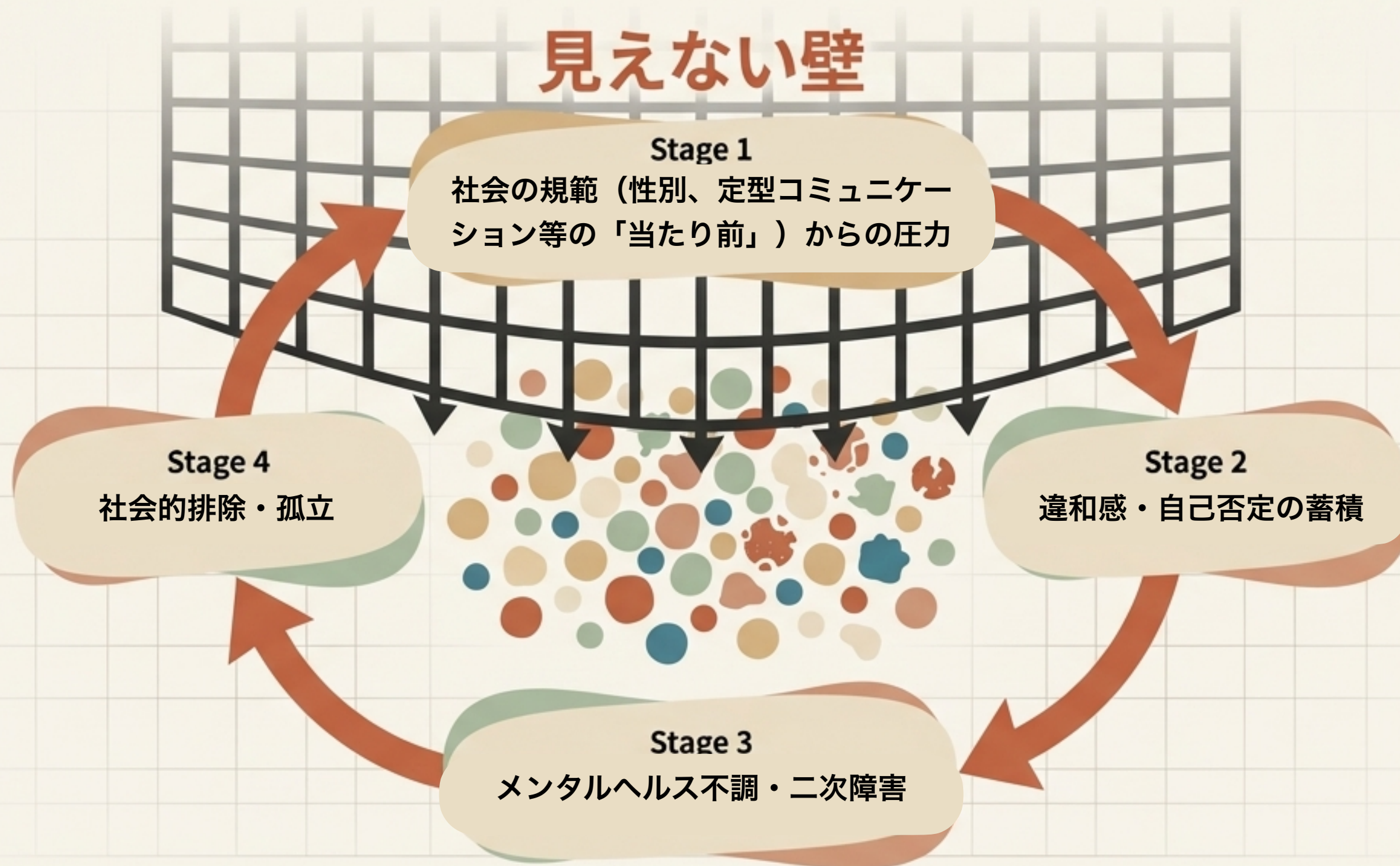
# プロジェクトの全体像：エコシステムの創出

発達障がい×LGBTQ等の「ダブルマイノリティ」が、安心して自己表現し、社会参加できる生態系を創る。



# 取り組んだ課題：「個人の能力」ではなく「社会の壁」

課題の根本は、マイノリティの適応力ではなく、社会に偏在する「見えない当たり前」の圧力にある。



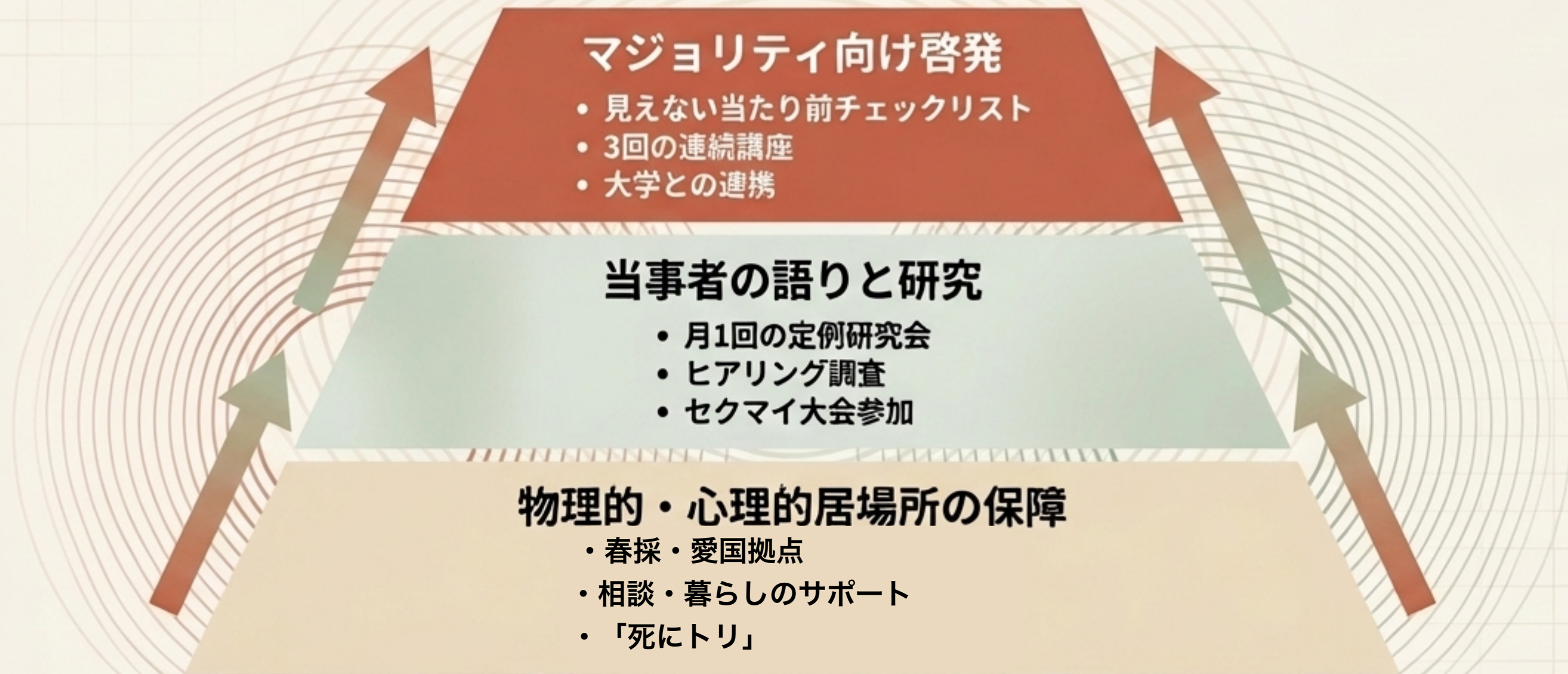
# アプローチの転換：パラダイムシフト

「マイノリティを社会に適応させる」支援から、「マジョリティの特権性を可視化し社会構造を問う」共創へ。

	従来の支援モデル（個人モデル）	本事業のモデル（社会モデル）
問題の所在	個人が社会の枠組みに合わないこと	社会の設計（働き方・規範）が偏っていること
目的	当事者を既存の社会に適応させる （例：週5日8時間労働への適応）	マジョリティの「特権」を可視化し、 社会の仕組みを問い直す
当事者の位置づけ	「支援される側」 「対象者」	知を生み出す主体、 共に社会を変える「同志」

# 活動の全体像：3層のアプローチ

安全な基盤を作り、当事者の語りを引き出し、その知見を社会（マジョリティ）へ波及させる。



# 活動ハイライト：実践の記録

居住支援から連続講座まで、多角的なアプローチによる実践。



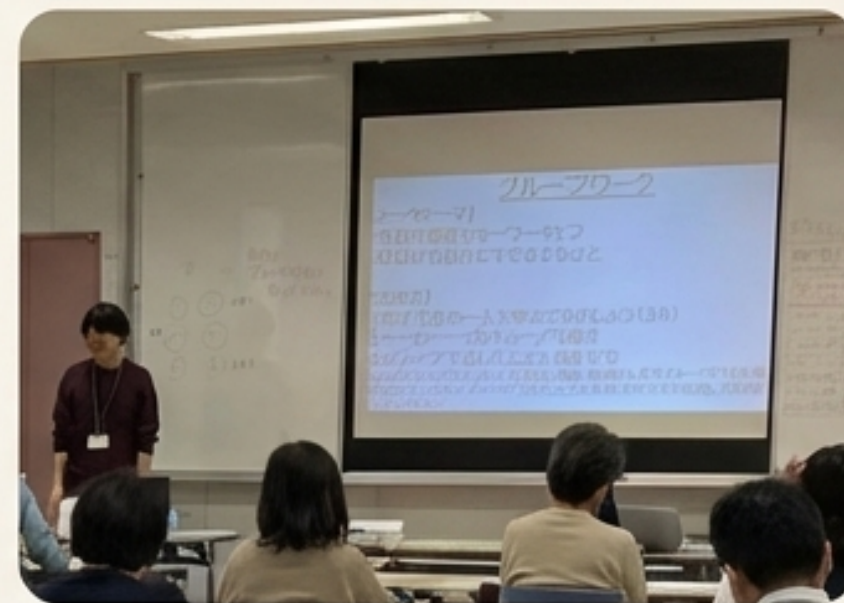
## 居住・生活保障

春採・愛国にて計14室の個室を確保。格安で自由に使える居室と、食事サポートを提供。



## ネットワークと研究

「セクマイ大会2025」への参加、当事者対談、関連書籍(フレイレ等)を用いた定例勉強会。



## 連続講座の実施

支援者や一般向けに「SOSを出しやすい関係性をつくるための基礎講座」を全3回実施。

# コア・ツール:「見えない当たり前前チェックリスト」

マジョリティが自身の「特権」に無自覚であることに気づくための画期的システム。



独自のWEBシステムとして開発。常にアップデート可能で、誰でも活用できる汎用性の高いツール。

「当たり前」のチェック



特権への気づき



構造的排除の理解



支援実践・行動の変容

# 実績 (Outputs in Numbers)

想定を超える当事者との繋がりと、広範な社会への波及。

**約80名**

繋がったダブルマイノリティ等の  
当事者

**14室**

確保した物理的居住空間  
(春採・愛国拠点等)

**86件**

経験談・アンケート回答・ディープヒアリングの総計  
(15経験談 + 54アンケート + 17ヒアリング)

**500名以上**

チェックリストを活用したマジョリティ  
(大学講義、支援者研修での活用含む)

## 成果①：当事者の変化（From Support to Solidarity）

「支援される対象」から、社会を共に変える「同志」への変容。

「話をする場がある、話すことが許されるという経験は自分だけでなく誰にとっても必要なものだと改めて感じます。」

「分断されていると感じていたものと、地続きなのかもしれないと感じるようになりました。」

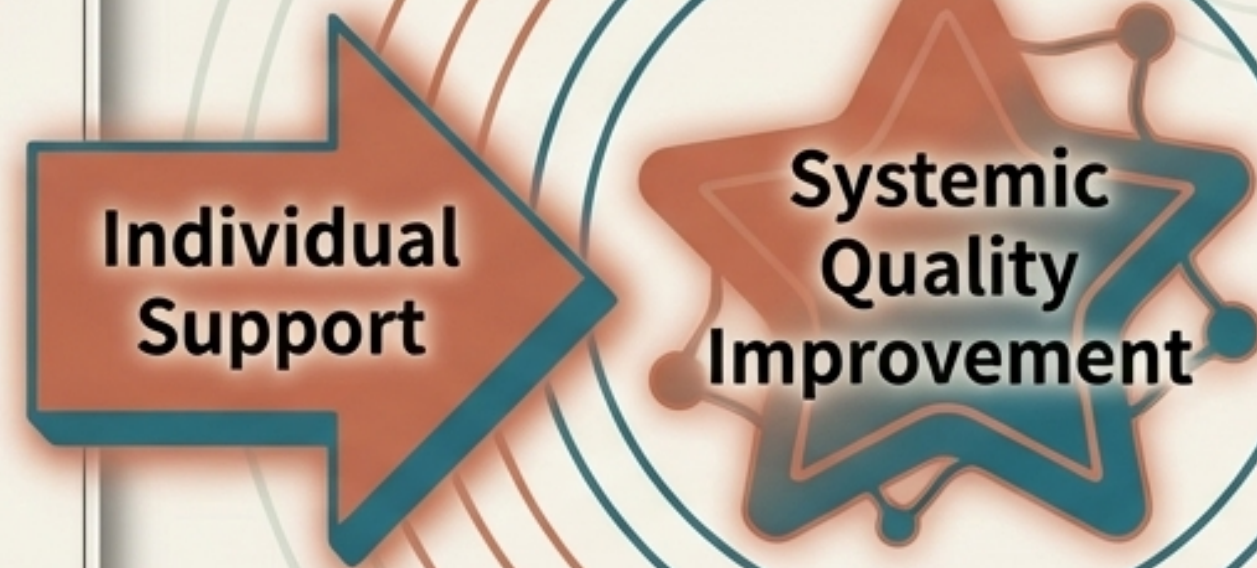
安心できる居場所と対話が、当事者の主体性を回復させ、深い自己表現と連帯（ピアの感覚）を生み出した。

## 成果②：マジョリティの変化（Awareness to Action）

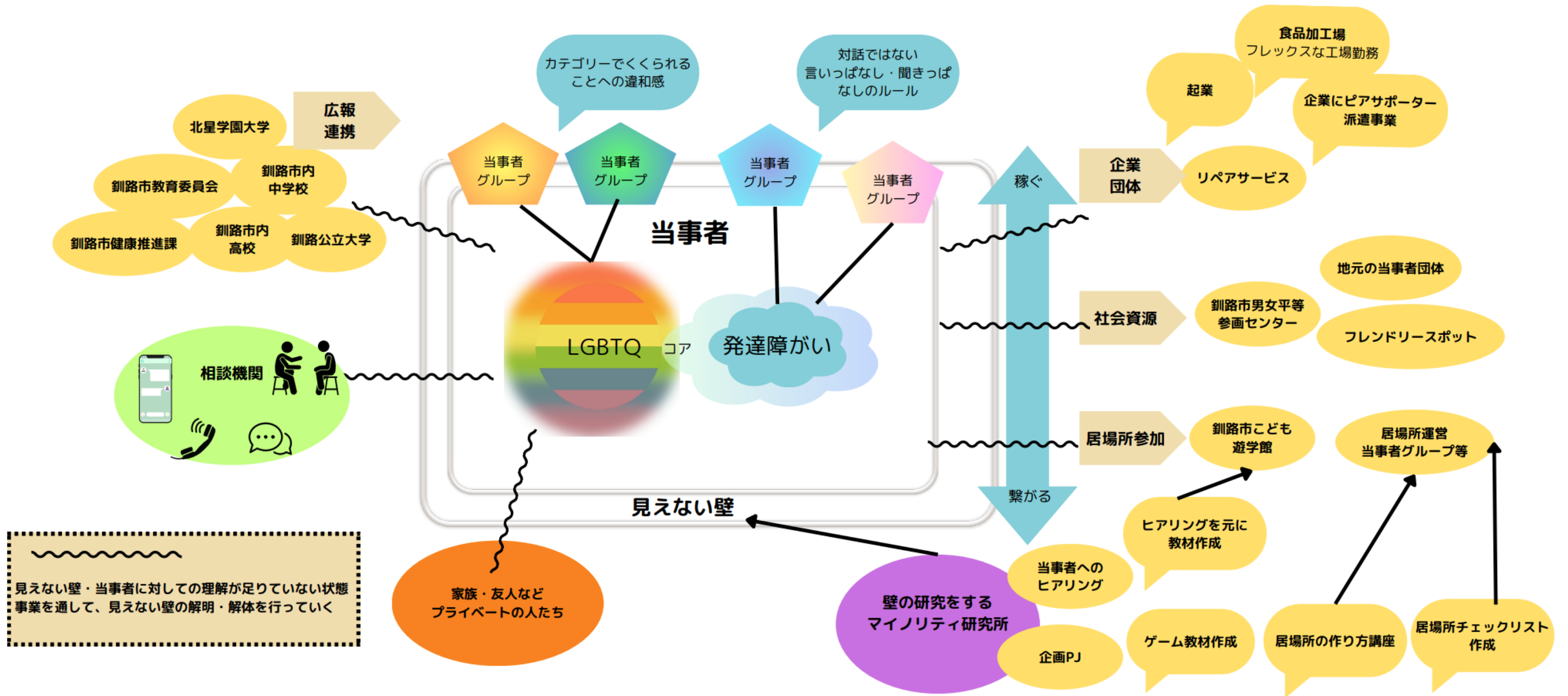
支援者や市民の中に起きた「社会構造への問い直し」  
実践の質が根本から向上。

釧路公立大学 村上沙織准教授 事業評価レポートより

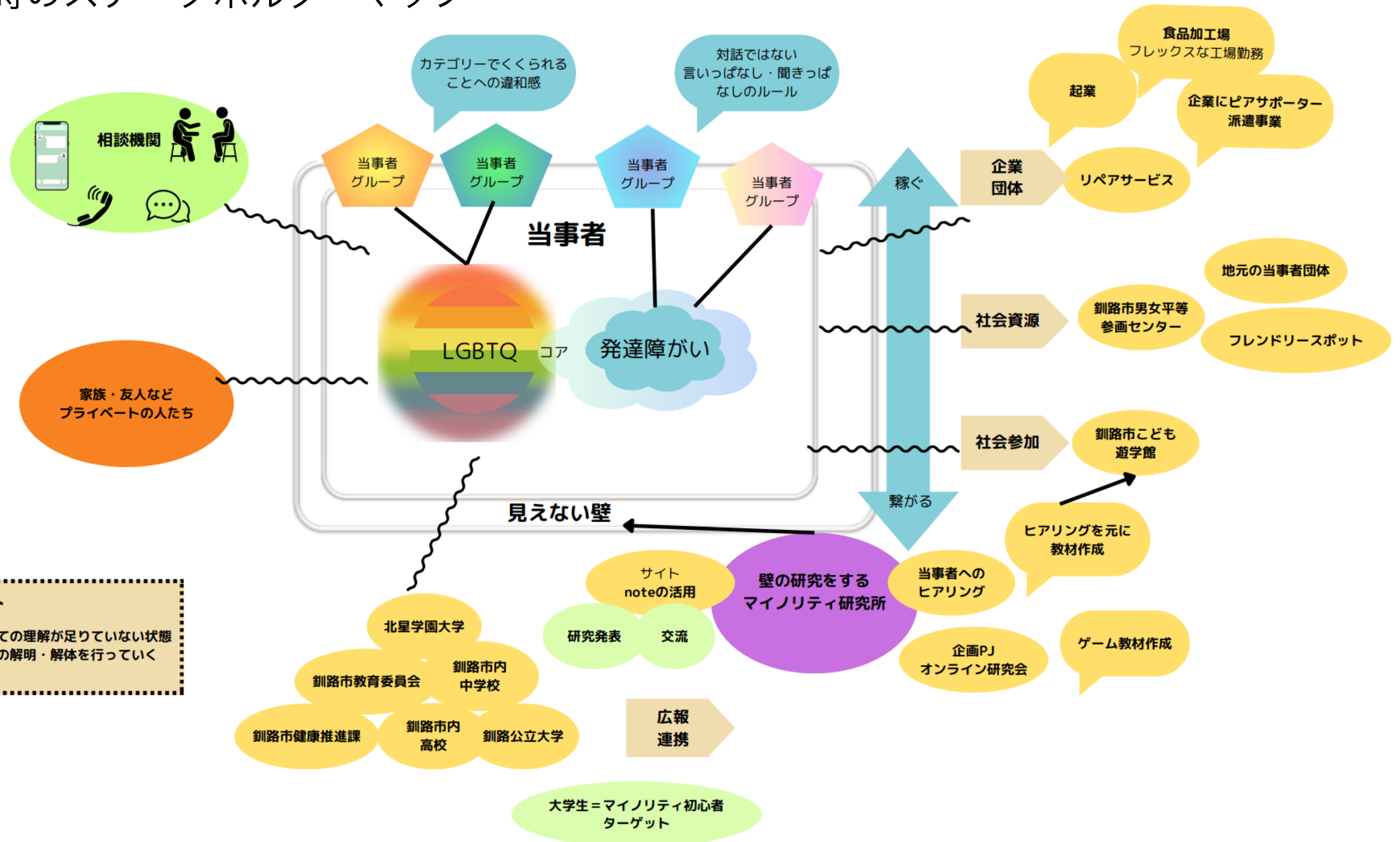
「当事者を支援の客体から、  
知を生み出す主体へと転換させた」  
「支援の現場にいる者が無意識に  
内面化している規範を自己点検する  
契機となり、単なる支援にとどまらず、  
支援実践そのものの質を高めた」



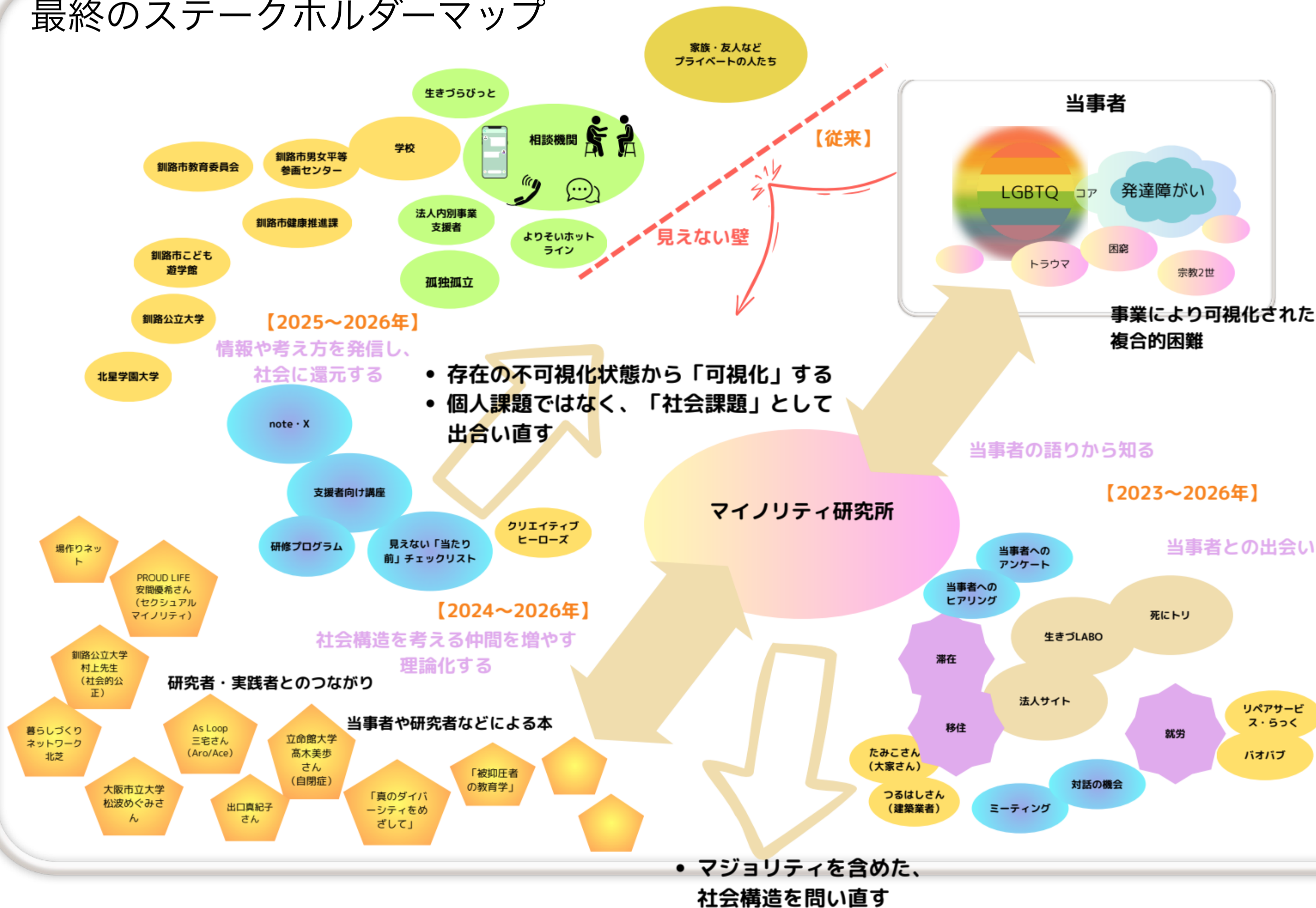
# 当初のステークホルダーマップ



# 中間評価時のステークホルダーマップ



# 最終のステークホルダーマップ



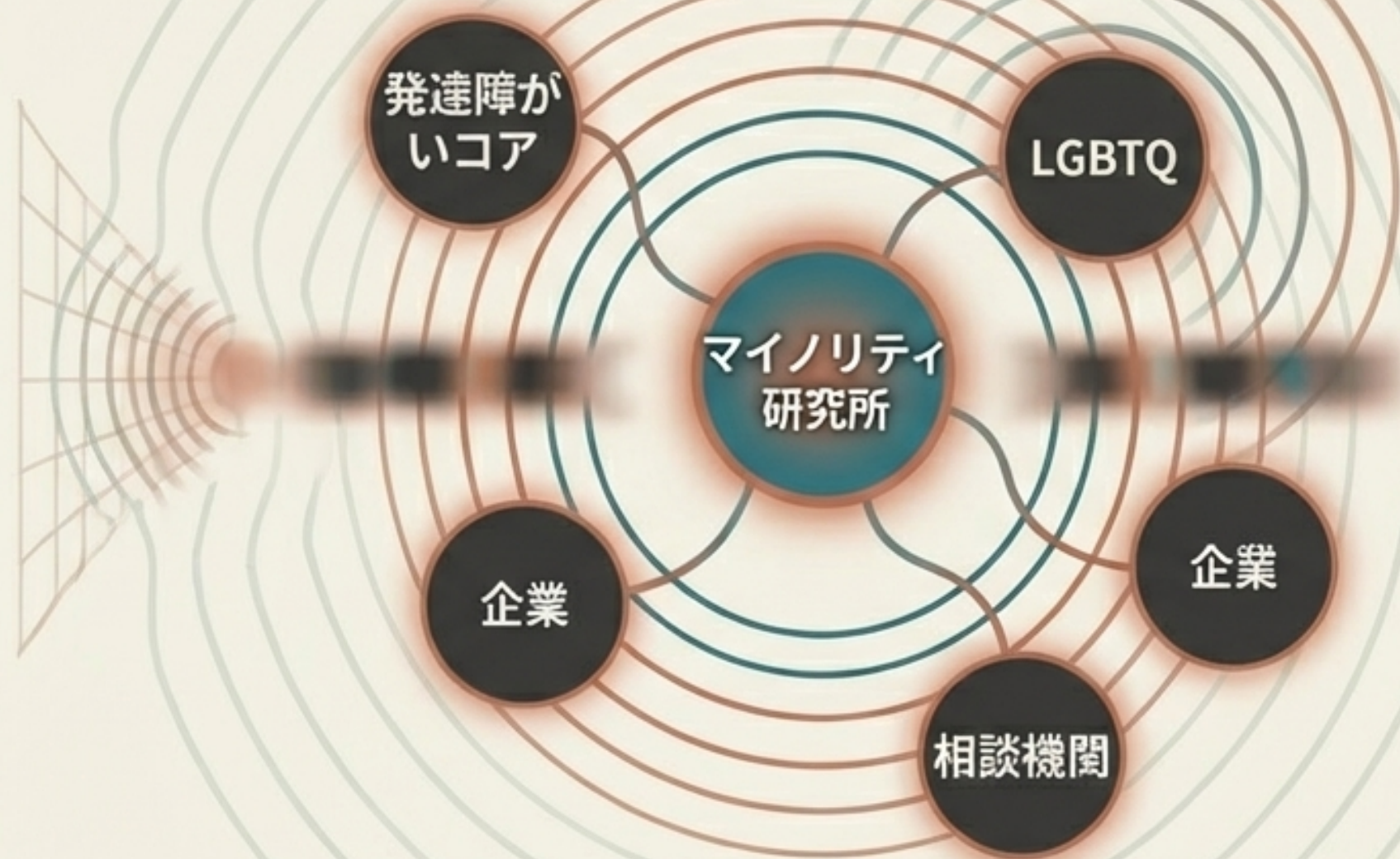
# 関係性の進化①：孤立からネットワークの萌芽へ

「見えない壁」に阻まれた初期状態から、ハブとなる  
研究所が機能し始めた中間期。

【当初 - Initial】



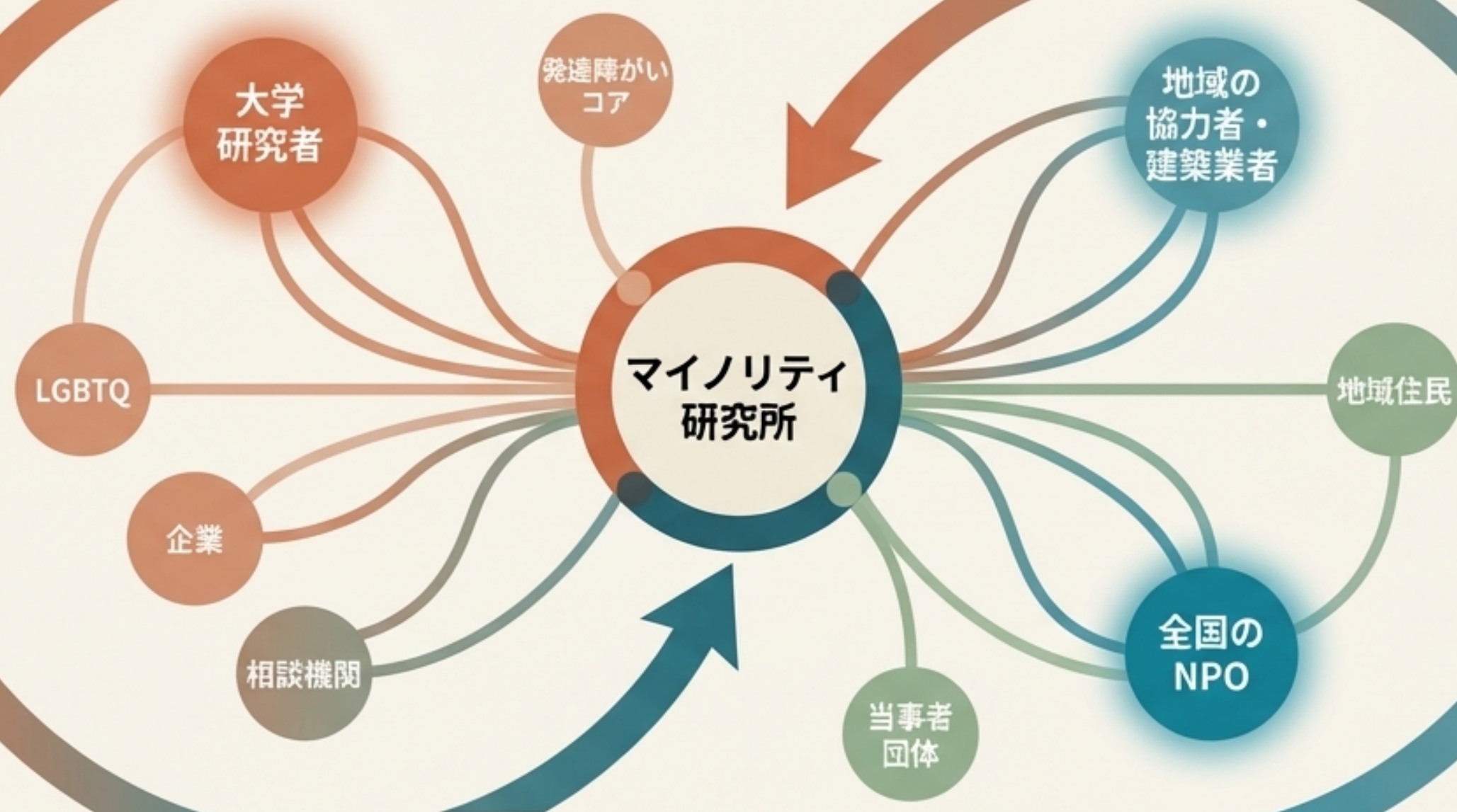
【中間 - Mid 2024】



# 関係性の進化②：支援の枠を超えた「エコシステム」の完成

地域社会、大学、他団体を巻き込み、当事者の語りが「社会へ還元」される大きなループへ。

【最終（26年2月）】



情報と考え方を発信し、社会に還元する

結論 (Conclusion)

結論 (Conclusion)

**真の社会参加とは、  
既存の枠に当てはまることではなく、  
社会の形を共に創り変えること。**

マイノリティの困難はマジョリティの課題である。  
このパラダイムシフトこそが、次世代の共生社会の基盤となる。

# 次年度以降に向けて：展望と課題

「意識化」から「行動」へ。持続可能な場づくりへの新たなフェーズ。



# 見えない壁を、共に考え続ける。

私たちの問いかけは始まりに過ぎません。  
共創の輪へ、ぜひご参加ください。

NPO法人 地域生活支援ネットワークサロン  
URL: <https://n-salon.org>



見えない当たり前チェックリスト